

評価項目	最終評価			
	経過・達成状況	評価	次年度に向けての改善方策	
1 社会で生き抜く力を身につける	幼稚園部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達同士のやりとりがうまれる声かけや場の設定をすることで、友達と体験したことイメージを共有しながら、やりとりをして遊ぶ姿が見られた。</li> <li>・写真や絵を手がかりに、経験や思いを言語化して伝えることができようになってきた。また、ことばや文章、手話表現等がはっきりして相手に伝わるようになってきている。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験したことをもとに、遊ぶ活動や話し合いをする場や時間の設定をする。また、遊びきる時間、コミュニケーションをとる時間のメリハリをつけた活動展開をしていく。</li> <li>・引き続き、口声模倣、手話模倣、拡充模倣を大切にしたり関わりを徹底する。また、どのようなことばかけをするのかについて共通理解して実践する。</li> </ul>
	小学部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話型を活用した授業づくりや、児童の実態に応じた視覚的支援、補助ツールの活用等に積極的に取り組んだ。</li> <li>・見通しを持って学習に取り組む、順序立てて考えて発表する、話したいことを整理して伝えようとする等、積極的に学習に取り組む児童の姿が見られた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話型以外にも、教室環境や板書のあり方等、授業づくりに関する研修や情報共有の機会を設定する。</li> <li>・ICT機器の活用については、専門家の研修や他校の実践に学ぶ機会を設定する。</li> </ul>
	教育研究部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学部で「伝えたい」「知りたい」と思える環境(話型、絵カード、手話表現等)を整え、実践を積み重ねたことで、幼児児童が積極的にコミュニケーションをしようとする気持ちが育ってきている。</li> <li>・実態把握や次の目標を確認する時などに自立活動プログラムを利用し、授業づくりに生かすことができた。</li> <li>・一人一研究授業の事前事後研に課題は残るが、良い実践を共有するとともに、アンケートによる助言・アドバイスが授業力の改善につながった。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、各学部で幼児児童が「伝えたい」「知りたい」と思いを出せる環境設定や、ことばの概念を育てていく意図的ななかかわりを大切にに取り組んでいく。(話型、絵カード、掲示等の言語環境、手話表現等)</li> <li>・引き続き、自立活動指導プログラムを効果的に活用して、指導の充実を図る。</li> <li>・教職員の専門性の維持、継承、指導力を高めるために、取組を進めていく。(職員研修の充実、一人一研究授業、参観ウイーク、自薦・ひまわりスタン)</li> </ul>
2 こうなりたい自分・夢をもつ	幼稚園部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本の読みかきかせをとても楽しんでいて、読んだ本を借りたり、同じジャンルや関係する本を借りたりすることが増えてきている。また、学級においてある本を読んでほしいとお願いするなど、絵本への関心が高まっている。</li> <li>・将来なりたいものについて、語る事ができる幼児が増えてきている。また、「ひまわりらんど」の活動で、運転手やシェフなどになりきって遊ぶ姿が見られた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々なジャンルの絵本、発達段階や読みかきかせの目的等に合わせた絵本など絵本選定を工夫するとともに、絵本をもとにした遊びに発展する活動を取り入れる。</li> <li>・仕事の見学等の校外保育を計画したり、なりきりコスプレグッズ類や仕事道具類などを用意し、ごっこ遊びの環境を整えたりする。</li> </ul>
	小学部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・失敗したときに、チャレンジしたことについて前向きな評価を伝えたり、常に前向きな声かけを意識したりしたことで、学習や遊びに失敗を恐れずチャレンジしようとする児童の姿が見られた。</li> <li>・児童の作品等を廊下に掲示したり感想カードで考えを伝え合う活動に取り組んだことで、友達のがんばりを認めたり、他者の考えから自分の考えを広げたりすることができるようになってきた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の思いを受け止め、じっくり対話する時間を大切にする。</li> <li>・作品や学びの足跡を積極的に掲示し、感想を伝え合う場を設定する。</li> </ul>
	支援部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カードを提示しながら音声や手話を示し活動を繰り返すことで、親子のやりとりの幅が広がってきている。</li> <li>・興味あるものやゲーム性のある活動により「会話」や「発音の反復練習」を行ったことで、子どもが自分から積極的に伝えることを楽しんでいる。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続きカードの提示し、ことば(音声及び手話)の拡充を図っていく。できるだけ具体物も利用し、関わる場面を設定する。</li> <li>・引き続き幼児児童生徒の実態に応じて、活動や練習方法を工夫していく。</li> </ul>
3 あきらめない体力・気力	幼稚園部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自由あそびの時間に体を動かす時間が増え、鬼ごっこ、ボール遊び、三輪車などで遊んでいた。その時に、友達を誘う様子がよく見られ、一緒に楽しんでいた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動の時間に楽しみながら多様な体の動きを経験できるように、引き続き計画的な運動の取組を進め、生活の中に結びつけていく。</li> <li>・様々な道具の整備を行い、教師も一緒に楽しみながら遊ぶ環境を設定する。</li> </ul>
	小学部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャッチボール、サッカー、鬼ごっこなど、遊びのバリエーションが増え、ルールのある遊びや友達と一緒に体をしっかりと動かすことを楽しむ姿が多く見られた。</li> <li>・体力づくりでは、なわとびやタオル体操等、家庭でもできる運動に取り組み、冬休みや休日に取り組む児童も見られた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひまわり分校の環境でできる運動の情報収集に努め、遊びの中に取り入れていく。</li> <li>・家庭でも取り組める運動を定期的に紹介していく。</li> </ul>
	健康安全教育部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・休憩時間に、子ども同士で誘い合って遊ぶ姿が見られるようになった。時間が合った際には、幼稚園部、小学部が一緒になって遊ぶこともあり、幼児が提案した遊びを児童が受け入れて遊ぶ等の思いやりも見られた。</li> <li>・配布文書でタオル体操を発信した。児童から、「お家でもやったよ」という声もきくことができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭や各学部から、できる遊びやできるようになってほしい遊びについて吸い上げ、新しい遊びとして幼児児童に提案する。</li> <li>・小学部・幼稚園部と一緒に遊べるよう、合同で遊ぶ時間の設定について検討する。</li> </ul>
4 キャリア教育の推進	支援部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・難聴学級担任にとって実際の指導や支援にすぐに生かすことができるよう、具体事例や参考資料も提供した情報交換・相談の場を設定することができた。</li> <li>・「難聴について」「補聴器・人工内耳」「手話」「ロジャー」等について必要な情報を集め、整理して、保護者や教職員に提供した。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き集合型と同時に Google classroom も活用していく。他校の行事を考慮して参加しやすい日程調整を図りたい。</li> <li>・「新生児聴覚スクリーニング検査」についても情報提供や研修を考えたい。</li> </ul>
	キャリア教育部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内掲示では、きこえない・きこえにくい先輩方の活躍や就労、進路等最新の情報を掲示し、キャリア教育だよりでは内容を工夫し、保護者への理解啓発につなげることができた。</li> <li>・個別の教育支援計画を支援会議で活用したり、懇談で進路や就労について話題にしたりして、子どもの将来の姿について保護者と話し合いを深めることができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、校内掲示の充実に努めるとともに、HP等を活用した情報発信をしていき、保護者への理解を深める。また、保護者や教職員にアンケートを実施して、知りたい情報を把握して発信する。</li> <li>・個別の教育支援計画の活用を促し、さらに、進路や就労に関する情報を提供したり、話のポイントなどを提示したりして、毎学期末の懇談に保護者と話し合う機会を設定していく。</li> </ul>
5 推進業務改善	(1)削減目標の達成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の声かけや時間外勤務時間の振り返り、「帰らあDAY」の設定などを通して、教職員の働き方への意識が高まった。7月以降、時間外勤務時間が月45時間を超える教職員は0名である。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学部や分掌の業務内容を再確認して、業務の分担に偏りがないよう人員配置を整え、企画会議等で定期的に調整する。</li> <li>・引き続き各取組のねらいを十分に共通理解して内容を検討し、企画運営を進め、業務のスリム化を図る。</li> </ul>
(2)運営の見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育活動の制限が緩和されコロナ禍以前の教育活動を思い起こしつつ、業務の精選を図り、効果的な取組を進めることができてきている。</li> </ul>			

